第14回インカレ国際セミナー
The 14th Inter-College International Seminar

アジアの中の日本 ――
新しい協力関係に向けて

Japan in Asia: Toward the development of new cooperative relations

2016年11月25日(金)–27日(日) 2泊3日

Date: 25-27 November 2016　19:00 開会式　19:00 Opening Ceremony

申込締切 2016年10月14日(金)17時
Application Deadline: 5pm 14 October 2016

場所 湘南国際村センター(神奈川県葉山町)
Venue: Shonan Village Center (Hayama-machi, Kanagawa)

アジアから日本を考える
Considering Japan from an Asian Perspective

基調講演 Keynote Lecture

テーマ Theme
アジアの中の日本 ―― 台頭する中国との付き合い方
"Japan in Asia: How to Deal with a Rising China"

高原　明生氏　Dr. Akio Takahara
東京大学教授(Professor, The University of Tokyo)

プロフィール Profile
東京大学大学院法学政治学研究科教授、東京大学公共政策大学院副院長。1981年東京大学法学部卒、英国サセックス大学にて博士号取得。立教大学教授等を経て2005年より現職。東京財団上席研究員、日本国際問題研究所上級客員研究員、日本国際フォーラム上席研究員などを兼任。近著に『シリーズ中国近現代史⑤　開発主義の時代へ 1972－2014』(共著、岩波新書)、『東大塾　社会人のための現代中国講義』(共編、東京大学出版会)。

セミナープログラム Seminar Program

※都合によりプログラム、講師は変更する場合があります。

11月25日(金)
17：00　受付開始
18：00　夕食
19：00　開会式
19：10　共通セッションⅠ
20：00　分科会説明
20：40　分科会演習Ⅰ(21：40まで)

11月26日(土)
9：00　分科会演習Ⅱ
10：15　基調講演［共通セッションⅡ］
11：45　昼食
13：00　分科会演習Ⅲ
15：00　休憩・自由行動
16：00　分科会演習Ⅳ
18：00　夕食
19：00　分科会演習Ⅴ(22：00まで)

11月27日(日)
9：00　分科会演習Ⅵ
12：00　昼食
13：00　分科会発表［共通セッションⅢ］
15：20　閉会式

主催 Organized by　KIF 公益財団法人かながわ国際交流財団 Kanagawa International Foundation (KIF)
共催 Cosponsored by　神奈川県 Kanagawa Prefecture
協力 Cooperation by　インカレ国際セミナー組織委員会 Inter-college International Seminar Organizing Committee

インカレ国際セミナー　検索

新秩序をどう模索するか　How Do We Build a New Order?

インカレ国際セミナー組織委員会委員長　Chair, Inter-College International Seminar Organizing Committee
鞠（クック）　重鎬（ジュン ホ）（横浜市立大学教授）　Joong-Ho Kook (Professor, Yokohama City University)

周知の通り、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）のような自由貿易や、EU（欧州連合）のような国家間連携が、ひときわ強調されています。ところが、今までとは違う戸惑いが感じられる現今です。その例として、トランプ現象から見られる排他的なアメリカ第一主義、EU離脱を問うたイギリスの国民投票という国家間連携への揺さぶりなどが挙げられます。それに加え、IS（イスラム国）も絡む無差別テロは、人間の安全保障に脅威をもたらしています。アジアでは、中国の海洋進出をめぐる紛争が可視化したり、中国主導のAIIB（アジアインフラ投資銀行）の台頭が国際金融秩序に影響を及ぼしたりしています。日本を含むアジアの国々は、中国とどう付き合うべきでしょうか。

インカレ国際セミナーでは2013年の第11回より、「アジアの中の日本」を本題とし、その都度副タイトルを付けています。今年の第14回の副タイトルは、「新しい協力関係に向けて」です。戦後70周年の節目を超え、「新しい協力関係」が求められると見るからです。それに関連し当セミナーでは、5つの分科会（A～ E）を設けています。各分科会においては、自由貿易の功罪（A：TPPへの賛否、経済・政治・外交・文化面から見た自由貿易など）、中国とAIIB（B：国際金融体制とアジアの将来像など）、海の安全保障と地域秩序（C：海洋進出をめぐる紛争と解決策の模索など）、新しい外交関係の構想（D：アジアの国際関係と日本の外交の行方など）、資源とエネルギー（E：環境・資源管理と持続可能性など）、のような多彩なテーマを取り上げます。

インカレ国際セミナーには、日本の学生だけでなく留学生たちも参加するため、国際交流の場も広がります。当セミナーでは、複数の大学からの参加者が分科会を組み討論を練り上げ、その成果物の発表を競います。その一連の過程を経て発表が終わる頃には、充実した達成感が得られると信じています。他大学から多くの先生方も加わり、皆さんにアドバイスを致します。それ以外にも、東京大学大学院法学政治学研究科教授の高原明生先生に登壇していただく基調講演もあります。高原先生からは、台頭する中国にどう付き合うか、という思考の幅の広がる言葉が頂戴できるでしょう。

当セミナーには、これまでに千数百人に至る先輩たちが参加してきました。今回参加する皆さんも、仲間たちとともに苦楽を共にし、今後の学生生活や就職活動に活かし、また夢の実現に一歩近づけてみてはいかがでしょう。普段はめったに会えない多数の大学からの参加者と議論する、その中身をまとめあげ発表を行う、他大学の先生方よりご指導を受ける、著名な先生に講演していただく、留学生たちとの交流を築くなど、かけがえのない体験になるでしょう。ふるってご参加をお待ちしています。

As is well known, free trade negotiations like TPP (Trans-Pacific Partnership) and inter-state cooperation like that found in the EU (European Union) have received much attention. However, there has recently been some confusion. To mention some examples: the exclusive America-first policy represented by the Trump phenomenon and the outcome of the United Kingdom referendum to withdraw from the EU, which indicate turbulent waves against international cooperation. Furthermore, indiscriminate terrorism, mainly involving the IS (Islamic State), also serves as a fearful threat to human security. In Asia, regional disputes over ocean initiatives are often related to China's advances into the East China Sea. The rise of the China-led AIIB (Asian infrastructure investment bank) also affects the international financial order. How do Asian countries, including Japan, face China?

Our inter-college international seminar has been held under the main title of "Japan in Asia" from the 11th seminar in 2013, with different sub-titles every year. The sub-title of the 14th seminar held this year is, "Towards new cooperative relationships," because the 70-year post-war anniversary serves as a turning point for the exploration of "new cooperation." Five sessions of this seminar addressed this issue. The five sessions, from A to E, at the 14th inter-college international seminar include such varied topics as the pros/cons of TPP, and free trade seen from economic, political, diplomatic, and cultural standpoints in Session A (Why Free Trade?); perspectives of the international financial system and Asia in Session B (China and Asian Infrastructure Investment Bank); issues on regional disputes over the ocean-initiatives in Session C (Maritime Security and Regional Order); international relations of diplomacy surrounding Asia in Session D (Designing New Diplomatic Relations); and management of the environment and resources to ensure long-term sustainability in Session E (Resources, Environment, and Promoting Sustainability).

Many foreign students participate in our inter-college international seminar, which offers a wonderful opportunity for exchanges, considering various ways of thinking. Participants discuss their topics of interest, prepare reports, and then present them at the final general session. I believe that you will experience a fulfilling sense of achievement when you have reached the final presentation following this course of processes. Prominent professors from various universities and institutions will provide advice as you consider and discuss these issues. During the seminar there is also a keynote speech by Professor Akio Takahara, professor of Contemporary Chinese Politics at the Graduate School of Law and Politics, the University of Tokyo.

As in case of the previous 13 seminars, this event may serve as a cornerstone to enrich your school life as well as your career after school. I hope this seminar will bring you one step closer to the realization of your dreams. I am looking forward to seeing all of you at the seminar in November. All of the best!

組織委員　Organizing Committee Members　（アルファベット順／ in alphabetical order）

鞠　重鎬	横浜市立大学教授（委員長）	Joong-Ho Kook	Professor, Yokohama City University (Chair)
椛島　洋美	横浜国立大学教授	Hiromi Kabashima	Professor, Yokohama National University
小林　正典	海洋政策研究所研究員	Masanori Kobayashi	Research Fellow, Ocean Policy Research Institute
黒川　修司	東京女子大学教授	Shuji Kurokawa	Professor, Tokyo Woman's Christian University
林　載桓	青山学院大学准教授	Jaehwan Lim	Associate Professor, Aoyama Gakuin University
奥迫　元	早稲田大学准教授	Hajime Okusako	Associate Professor, Waseda University
大芝　亮	青山学院大学教授	Ryo Oshiba	Professor, Aoyama Gakuin University
佐橋　亮	神奈川大学准教授	Ryo Sahashi	Associate Professor, Kanagawa University
貴家　勝宏	東海大学教授	Katsuhiro Sasuga	Professor, Tokai University
山田　敦	一橋大学教授	Atsushi Yamada	Professor, Hitotsubashi University
浅沼　知行	（公財）かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター長	Tomoyuki Asanuma	Director, Shonan Village Academic Research Center, Kanagawa International Foundation (KIF)

＊協力：Assisted by

小久保　康之	東洋英和女学院大学教授	Yasuyuki Kokubo	Professor, Toyo Eiwa University

分科会 Discussion Groups

アジアを読み解く5つのテーマ
Five Themes for Deciphering Asia

＊分科会の詳細はKIFホームページでご確認ください。
For more information, please check the KIF website.→

＊ノートPCやタブレットPCをお持ちの方は是非ご持参ください。
なくても問題はありません。
It is encouraged to bring your own laptop or tablet PC for discussion group.
It's no problem even if you don't have one.

＊都合によりプログラム、講師は変更する場合があります。
Program contents and lecturers are subject to change.

分科会 A 自由貿易の功罪
Why Free Trade?

講師：鞠重鎬、山田敦

あなたはTPP（環太平洋パートナーシップ協定）に賛成? 反対? その理由は? モノやサービスの貿易自由化は、私たちの生活に直結する問題である。社会人になれば、消費者としてだけでなく、生産者としても、この問題に向き合わざるを得ないはず。そうした個人の視点から出発して、グローバルな視点へと広げていき、経済学や政治学の理論にも依拠しながら、自由貿易のメリットとデメリットを話し合ってみよう。そこからアジアにおける日本の進路――新しい協力関係への道筋――を考えることが目標である。

まずは、以下のような問いについてリサーチし、結果を整理してくること。

①経済的にみたときの自由貿易の功罪は? 政治的には? 文化的には?
②世界にとって自由貿易の功罪は? アジアにとっては? 日本にとっては?
③WTOのような多国間での自由貿易の功罪は? EUやTPPなど地域的な場合は? FTA ／ EPAなど二国間の場合は?
④貿易と外交・安全保障はどう結びつく? 貿易と開発は? 貿易と環境は?
⑤最近のニュースにも注目――米大統領選で反TPP派が勢いづいたのはなぜ? 英国のEU離脱で市場統合の行方は? 日本の通商政策はどうなっている?

〈参考文献〉

①日本経済新聞社編『TPPがビジネス、暮らしをこう変える』日本経済新聞出版社、2016年。――貿易を身近な問題として。
②中川淳司『WTO――貿易自由化を超えて』岩波新書、2013年。――グローバルな問題として。
③大矢根聡・大西裕編『FTA・TPPの政治学』有斐閣、2016年。――日本と周辺諸国の問題として。

分科会 B 中国とAIIB―浮上する新たな経済秩序
China and Asian Infrastructure Investment Bank – Emerging new economic order

講師：大芝亮、貴家勝宏

援助における国際機関の役割は大きく、第二次世界大戦後、IMF・世界銀行という欧米主導の国際金融体制が構築された。世界銀行を中心に融資を活用した資金援助と政策アドバイスを行う国際開発金融機関（MDBs: Multilateral Development Banks）が援助で重要な役割を果たしてきた。アジア開発銀行（ADB: Asian Development Bank）がアジア・太平洋地域の貧困削減を目的に1966年に設立され、アジア地域のMDBsとしての役割を果たしてきた。一方、アジアインフラ投資銀行（AIIB: Asian Infrastructure Investment Bank）は、中国が主導しインフラ建設を主たる目的に設立され、2016年に最初の融資案件が動き始めた。従来のMDBsとAIIBを巡る議論には以下の3点がある。1. アジアの膨大なインフラ需要には、世銀やADBなどでは十分満たせないという経済的要請、2. 国際金融体制における中国や新興国の台頭と新たな役割をめぐる国際金融体制の改革の要請、3. 中国主導の地域開発金融機関の統治をめぐる透明性や政治的意図という国際政治の現実の問題、である。アジア地域のMDBsを巡り、既存の国際機関との連携・協調の体制が構築されるのか、それとも既存の体制との軋轢や競争の時代となるのか歴史的な転換期といえる。日本が果たすべき役割とは何か、課題を掘り下げてアジアの将来像をグループで議論しましょう。

〈参考文献〉

①真壁昭夫『AIIBの正体』祥伝社新書、2015年。
②三井物産戦略研究所「AIIB:アジアインフラ投資銀行設立をめぐる動き」http://mitsui.mgssi.com/issues/report/r150512_munenaga.pdf
③Robert Wihtol, "Beijing's Challenge to the Global Financial Architecture", Policy Forum, Spring/Summer 2015
④Economists for Peace and Security, "Japan's Participation in the Asian Infrastructure and Investment Bank (AIIB)," Japan Policy Forum Discussion Paper, http://www.japanpolicyforum.jp/en/pdf/2015/no27/DJweb_27_dip_01.pdf

分科会 C 海の安全保障と地域秩序
Maritime Security and Regional Order

講師：林載桓、佐橋亮

海をめぐる対立と紛争が深刻化している。日本の安全保障の最大の関心事となった東シナ海はもちろん、南シナ海をめぐる諸国の動きは世界的な注目を集めている。なぜ近年、海をめぐる問題が噴出するようになったのか。中国の「積極的な海洋進出」はなぜ始まり、どのように進行してきているのか。アメリカの新たなアジア戦略は現状を守られるか。紛争の緩和や解決に既存の国際法体系はどれほど役に立つのか。海をめぐる問題の管理にはどのような国際協力の枠組みが必要なのか。そして、これらの課題に日本は何ができるのか。本分科会では、海をめぐる新たな状況をどのように理解し、どのような選択をすべきか、ともに考えを進めていきたい。参加者全員が、東アジアの国際情勢の現状を理解した上で、将来を思い描くことができるようにしたい。事前学習として、以下の3冊の該当箇所を読みこみ、議論するための基礎知識を得ておくこと。

〈参考文献〉

①ビル・ヘイトン（安原和見訳）『南シナ海：アジアの覇権をめぐる闘争史』河出書房新社、2015年（4, 5, 6, 7章）。
②大石英司『尖閣喪失』中公文庫、2013年。
③防衛省防衛研究所『東アジア戦略概観』2016年版（序章, 5, 8, 9章）（ネットで閲覧可）。

分科会 D 新しい外交関係の構想
Designing New Diplomatic Relations

講師：黒川修司、奥迫元、小久保康之

当分科会では、日本のアジア外交をめぐる問題・課題について以下の3点に留意して議論を重ね、今後の日本のアジア外交の基本戦略について議論する。

(1) 世界人口の約60%、世界総GDPの30%近くを占めるに至ったアジアの国際関係は、世界全体に大きな波及効果をもたらしうることから、グローバルな視野をもって日本のアジア外交を考察する必要があること。

(2) 経済、安全保障、環境等のイシュー領域において顕在化している問題やリスクは、ますます複合的で分野横断的な性質をもつようになっているため、俯瞰的・総合的な日本の外交戦略の構築が求められていること。

(3) 国家・政府に加え、NGOや企業、自治体、ひいては個人をも含む多様な非国家アクターが外交の担い手として果たしうる役割、さらにこれら諸アクター間の協働を通じて可能となる新しい外交の様式・形態について吟味する意義が高まっていること。

これまで経済のグローバル化を牽引してきたアメリカとイギリスで、「トランプ現象」やEU離脱に象徴される反動的事象が生じたことの意味は重い。こうした時勢に鑑み、日本と諸価値観を共有するアメリカ・ヨーロッパ(EU)との連携を踏まえ、日本が主体的で包括的なアジア外交をどのように展開すべきかについて展望・構想していきたい。

〈参考文献〉

①国分良成編『日本の外交 第4巻―対外政策 地域編』岩波書店、2013年。
②大芝亮編『日本の外交 第5巻―対外政策 課題編』岩波書店、2013年。
③井上寿一、波多野澄雄、酒井哲哉、国分良成、大芝亮編『日本の外交 第6巻―日本外交の再構築』岩波書店、2013年。

英語で討論します。Language: English

Group E Managing Resources and Environment and Promoting Sustainability

Lecturers: Hiromi Kabashima and Masanori Kobayashi

Growing demands for resources and energy exponentially raise the pressure on planetary resources and undermine the foundation of long-term sustainability. Disparity in the access to resources and energy still persists while the level of the capacity to manage and adapt to alternating conditions differs substantively across regions and the world. What are the key factors for overcoming policy and institutional gaps in the management of the environment and resources for ensuring long-term sustainability? This group will discuss such issues based on case studies, and intends to comprehend the driving forces and their consequences as well as the stakeholder interface with the view to exploring possible solutions. The students are expected to gain knowledge on past and projected future trends of resource use and pressure on the environment and implications for long-term sustainability as well as an international policy agenda such as the Sustainable Development Goals, and UNFCCC/COP21 Paris Agreement. Students are also expected to develop presentation and discussion skills.

Reference:

1. Butler, J.R.A., et al. 2016. Scenario planning to leap-frog the Sustainable Development Goals: An adaptation pathways approach. Climate Risk Management. 12. pp.83-99.
2. United Nations Environment Programme (UNEP) and Asia Pacific Forum for Environment and Development (APFED). 2015. Casebook on Innovative Activities for Achieving Sustainable Development in Asia and the Pacific. Match-Up. Tokyo. http://www.apfedshowcase.net/node/313
3. Kobayashi, M. 2014. Participatory Sustainability Research for Risk Management and Leadership Development. In: Kaneko, N. et al. eds, Sustainable Living with Environmental Risks. Springer. http://link.springer.com/book/10.1007/978-4-431-54804-1

参加申込方法 Application Information

参加資格：東アジアの政治や文化、開発などに興味を持つ大学生、大学院生および若手社会人。専門分野は問いません。参加者は事前学習をしてから参加することが求められます。使用言語は日本語または英語です。**通訳はつきません。**

Qualification : Undergraduate/graduate university students of any specialized field, or young workers interested in East Asian politics, culture and development etc.. Note that participants are required to read references beforehand. This seminar will be conducted in Japanese or English. **No interpretation will be provided.**

期間：2016年11月25日（金）～11月27日（日）2泊3日
11月25日の午後5時から開会式会場前にて受付を行います。大学等の理由により遅れる場合には、遅くとも開会式の15分前までに受付を完了してください。なお、参加者は全プログラムに参加するものとします。

Date : 25- 27 November 2016
Registration begins at 5 pm on 25 November. If you will be late for it due to a university etc., please complete registration at least 15 minutes before the opening ceremony. Participants are expected to stay for the entire duration of the seminar.

場所：湘南国際村センター
〒240-0198　神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39
http://www.shonan-village.co.jp/

Venue : Shonan Village Center
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198
http://www.shonan-village.co.jp/svc/

定員：90名

Number of participants : 90

費用：23,000円
宿泊費・食費込み（留学生8,000円 ※但し選考があります。）

Fee : 23,000 yen
It covers accommodation and meals. (8,000 yen for foreign students. Note that there will be a selection process.)

修了証：本セミナーを修了した参加者に対して組織委員会から修了証が交付されます。

Certificate : Each participant will receive a certificate upon successful completion of the seminar.

宿泊：同性での複数人部屋（2～6名）

Accommodation : Room sharing with 2 to 6 people of the same sex.

応募方法：参加申込書（PDF）をかながわ国際交流財団のホームページからダウンロードし、必要事項を入力の上、**E-mailにて10月14日17時必着**でお申し込みください。申込書の送信後、**受領確認メールがお手元に届いたか必ず確認してください。確認メールが届かない場合は、事務局までお電話でご連絡ください。**
【参加申込書ダウンロード】http://www.kifjp.org/nimp/incolle

How to apply : Please fill in the application form and send it to Secretariat **by E-mail, no later than 5:00 pm 14 October. Please make sure to receive automatic reply mail from KIF Secretariat. If you don't receive automatic reply mail, please contact to Secretariat by phone.** The application form can be downloaded on Kanagawa International Foundation website.
http://www.kifjp.org/nimp/incolle

合格通知：応募者は組織委員によって審査され、**10月26日までに全員に合否メールを送信します。**合格者には、「参加証」と、参加費の「振込先口座」も併せてメールでご連絡しますので、**11月4日までに参加費をお振り込みください。**

Notification of admittance : Applications will be reviewed by the Organizing Committee. **Results will be notified to all applicants by E-mail by 26 October. The participation fee must be deposited to the designated bank account by 4 November.** Details will be sent to the selected participants directly.

キャンセルについて：都合により参加を取り消される場合は、すみやかにセミナー事務局までご連絡ください。所定のキャンセル料を差し引いた額を返金します。

Cancellation : If you have to cancel your attendance, please contact Secretariat as soon as possible. Participation fees will be refunded after deduction of cancellation fees and bank charges.

保険について：本セミナー期間中の施設（建物）の損壊に係る傷害には保険が適用されます。それ以外については保険の対象外となります。

Insurance : Insurance covers the injury concerning destruction of the building in this seminar period. Personal accident insurance is not applied other than this.

お問合せ・お申込み：
(公財)かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター
インカレ国際セミナー事務局　（担当：佐々木、西山）
〒240-0198　神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39
湘南国際村センター内
TEL：046-855-1821（9:00～17:00 土日祝日をのぞく）
E-mail：incolle@kifjp.org
URL：http://www.kifjp.org/nimp/incolle

Secretariat :
Kanagawa International Foundation (KIF)
Shonan Village Academic Research Center
(Program Officers: Akie Sasaki, Akira Nishiyama)
1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198
TEL: 046-855-1821　E-mail: incolle@kifjp.org
Office hours: Monday - Friday 9:00-17:00 (except national holidays)
(Should you have any questions, please contact above.)
URL：http://www.kifjp.org/nimp/incolle

会場のご案内 Access

●バスをご利用の場合

▶JR逗子駅前1番乗り場より16系統、26系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗車、終点の「湘南国際村センター前」で下車。（所要時間約30分、料金350円）
※このバスは2～3分後に京急新逗子駅前１番乗り場に停車します。
▶京急汐入駅前2番乗り場より16系統「湘南国際村センター前」行きバスに乗車、終点の「湘南国際村センター前」で下車。（所要時間約30分、料金380円）

●タクシーをご利用の場合

▶JR逗子駅前タクシー乗り場より「湘南国際村センター」まで約15分。料金約2,900円。

日本語：http://www.shonan-village.co.jp/access.html
English：http://www.shonan-village.co.jp/svc/access.html
バス時刻表：http://www.kifjp.org/wp/wp-content/uploads/2014/02/bus-time-table-20160716.pdf

bus timetable